

令和2年度 第3回 長浜市図書館協議会 会議録

日 時：令和2年12月17日 14時00分～15時05分

会 場：ながはままちづくりセンター1C会議室

出席者：塩見昇会長、小西光代副会長、國松完二委員、平井むつみ委員、阿閉正美委員、
川瀬寛子委員、藤居みよし委員、小川淳三委員、藤田浩行委員、

欠席者：安井さと子委員

事務局：江畑市民協働部長、前嶋市民協働部次長、下司長浜図書館長、
森図書館第一係長、大西図書館第二係長、江崎主幹、白谷司書

傍聴者：なし

【開会】

定数10人のうち9人出席により会議成立の旨を宣言し、長浜市立図書館管理規則第18条により、会長が議長となり会議の進行を行った。

【開会挨拶】

会 長：会議はできるだけ短くということなので、ご協力をお願いしたい。今日は図書館協議会と懇談会の2段階の会議となる。長浜図書館開館後の利用動向調査を、愛知工業大学の中井研究室に依頼しており、その単純集計をもとにした利用状況をみて委員の皆さんにご意見を頂きたい。

【協議事項：令和2年度長浜市立図書館利用動向調査結果（単純集計値）意見交換】

事務局：利用動向調査は長浜市図書館基本計画（第2期）の策定に向けて長浜図書館移転前後の利用者の動向を調査し、計画に盛り込んでいくということで進めている。

昨年度に引き続き、今年9月、愛知工業大学中井研究室の学生が市内の図書館に来館した利用者を対象にアンケートを実施し、長浜図書館移転前後の人の流れや利用目的について調査した。アンケートの集計結果を事前に配布している。正式な報告書は年内受領予定のため、現時点で詳細は報告出来ないが、中井研究室の学生の論文から、調査結果の傾向について報告する。地区別の利用動向をみると、長浜図書館では長浜地区内からの利用者が多く、浅井、びわ、虎姫では長浜地区からの利用が多い。昨年度に比べ地区内利用者割合は減少し、地区外利用者が増加していることから利用者は地区外の図書館を広く利用していることが考えられる。

個人の利用傾向としては、1館のみの利用と比較して複数館を利用する人は昨年度よりも増加している。全体的には、複数館を利用する人の割合が10%程度増加している。長浜地区外からの利用者のうち地区内の図書館と長浜館を組み合わせている利用者が多く、自分の地区内の図書館に不足している部分を補うため長浜館を利用していると考えられる。2019年度の調査と比較し、他の地区から長浜館利用が増加した。複数館利用者がほとんどの図書館で増加しており、図書館利用が複雑化していることがわかる。

長浜図書館の複合化による施設の利用目的別では、プラザ来館者の約9割が図書館利用者であることが分かった。調査報告書にもあるが、プラザの満足度アンケートでは約7割の方が満足

しているという回答だったが、駐車場に対する不満の意見が多かった。利用動向調査報告書と図書館の利用統計などからの分析を踏まえて、第2期計画案に反映させたいと考えている。本日はアンケート結果を見て気づいた点や、実際に委員の皆さんや市民の方が移転前後の図書館についてどのように感じておられるのかご意見を頂きたい。

会長：長浜図書館が開館して1年の利用状況に関して気になったところ感想等、意見を頂きたい。

委員：新しく長浜図書館ができたことによって利用頻度は変化したかというところで、複合施設であるからこそ利用を高めてもらえるような工夫してほしい。幅広い世代に利用してもらうため共同のイベントなども取り組んでほしい。

会長：複合を意識した事業については後程報告して頂きたい。

委員：少し不満・大変不満という意見の中に、駐車場が狭いという意見がある。車椅子利用の方にとって雪の日など不便である。図書館の利用者だけでなくプラザ全体のマイナスイメージになる。身体の不自由な方に優しい構造になるといいと思う。

会長：駐車場に関する意見は多い。公共交通機関を使って来る人がほとんどいないため、駐車場への関心が高いと考えられる。

委員：図書館がオープンな雰囲気になったことで、複合施設としての良さがあると感じる。複合施設として図書館をつくったことで、社会生活の中に図書館を感じることができる。

委員：問6の図書館または近くの他の施設のどちらを主に利用したか、という質問についてこれは施設内の他の施設なのか周辺施設のことなのか分かりにくい。

問16の高月図書館にこれからどのような期待をされますか、について資料の充実を望む市民の方が多いことを改めて感じる。

委員：湖北図書館は中学生が9%、長浜図書館は高校生が7%利用しており、大変多い。学習室の影響が大きいように思う。

車椅子ユーザーにとって不向きという点、もう少し具体的にわかると良い。

会長：15歳までの利用者の単純な数が出ているが、中学生の利用状況をみてどう思うか。

委員：具体的な姿を見る機会がないので申し上げにくいですが、学校図書館においては利用者が少ないものの学校司書がレイアウト等を工夫し、校内に利用を呼びかけている。中高生に図書館の利用を促すには、学校から子どもたちに呼びかけがあるといいのではないかと思う。学校司書が授業に必要な本を全て市立図書館から借りてきているため、生徒が自分で借りに行くという機会が少ない。

会長：木之本の学校は離れているが、子どもたちは長浜図書館にきているか。

委員：遠いのであまり来ているようには思わない。だが調査報告書の1ページ目の統計で、木之本から来ている人が12人とあるのを見ると、遠いが来ている方だと思う。

木之本中学校3年生の女子生徒がさざなみタウンの命名に関わっており、生徒にも伝えるがあまり反応はない。

委員：いつでも入りやすい施設になっていると感じる。施設も新しく気持ちよく過ごせる場所になっている。統計をみると職員全体が丁寧な対応を心掛けていると感じる。トイレが綺麗だと施設の印象も良くなる。小学生同士の会話に長浜図書館の話題が上ることはあまり聞いたことがない。やはり距離の問題が大きいですが、一度長浜図書館へ来て良さがわかればもう一度足を運んで

みようという気持ちになる。そういう工夫も学校現場でできることがあるのではないかと思う。

会長：可能なら機会を作ってでも様子を見に来てもらうといいと思う。

委員：一点目。報告書最初のページの、どこの図書館にどこから来ているかというところで、浅井図書館に色々な所から平均的に来ていることに驚いた。その原因はわからないが、どのような良さがあって選ばれているのかわかるといいと思う。

二点目。自転車置き場が使いにくい。特に高いスタンドが停めにくく、他の人が使っているのをあまり見かけない。そのような意見の方が他にもいるのではないかと思う。

三点目。自動貸出機は便利だと思うが、それで満足している人があまりいないのも不思議に思う。

会長：皆さんの一番印象に残ったところについてお話頂いた。私自身が特に印象に残ったのは、職員が丁寧に対応しているという意見があるのに対して、大変不満の項目にある利用者と職員の交流度が希薄になったという指摘である。このあたりはその時々の様子で変わってくるが、施設が大きくなると交流が希薄になるという問題が出やすくなる。また、車で来る人が圧倒的に多く、バスや鉄道の利用者はゼロであることに驚いた。地方都市なので当たり前かとは思いますが、長浜市の規模でこのような結果が出るのは気になる。コミュニティバスの運営についてはわからないが、街によっては図書館や病院など行き先をかなり絞り込んでいるところもある。これは市のポリシーの問題でもあるのでそのあたりが関係するのかもしれないか気になった。

今までの意見を受けて、この一年間の施設と図書館との関係性や駐車場、駐輪場の問題について報告をお願いしたい。

事務局：複合施設を意識した取り組みとして、今月は一周年記念祭としてまちづくりセンターや社会福祉協議会と協力しながら毎週土日に催し物を開催している。まちづくりセンターでは、土曜こども学び座という学校が休みの時に行っている事業があり、図書館もその事業に協力している。3階には社会福祉協議会があり、双方の情報共有の中から対応できるようになった事柄もいくつかあったので、複合施設としての強みが今年一年で見えてきたと感じる。

駐車場に関しては、北側駐車場の収容台数は77台となっており、イベント等があるとたちまち満車になるため、開館当初から使いにくいとの意見を頂いている。現在は、道路を挟んで南側にも駐車場の整備を進めており、100台以上の駐車スペースが確保できる。

しょうがいのある方への配慮という点では、ご不便をおかけする場面があったと思う。図書館だけでなく施設全体の問題として考えていく必要があるので、本日頂いた意見をプラザやまちづくりセンターにも共有して、全体で考えていきたいと思う。

館長：図書館の展示に関して、まちづくりセンターでサークル活動をしている方の作品と一緒に関連本を展示したりして興味や関心が高まることもあった。

もう一つ、社会福祉協議会が上におられることで、配慮が必要な方の対応に困る場合、直接相談をさせてもらうことができる。平日の昼間にお子さんがおられるケースや、引きこもりの支援という形で図書館のボランティア活動をして頂き外へ出る機会を作る体制を整えていた。新型コロナの影響が出始めたため、その後あまり進んではいないが、ケースバイケースで取り組んでおり、必要に応じてすぐに色々な方と連携を取りながら相談ができるのは強みになったと思う。職員も視野を広くし、勉強することも必要なので、カウンターで伺ったことに関して、

図書館の事業ではないのでわからないとは言わず、担当部署に引き継ぐ、確認して確実にお答えするというを徹底している。先ほどの意見で職員が丁寧に対応しているとあったが、どの職員も少しずつ学びながら頑張っていると感じる。

駐車場の件は先ほど申し上げた通りだが、建物沿いの停めやすいエリアを思いやり駐車場としてコーンを立てるなどして配慮している。建物に沿って歩くと雨に濡れない設計になっているが、利用者には少し分かりにくいかもしれない。車椅子やベビーカーの利用者に配慮ができていないというご意見は日頃いただくので、情報共有を続けていきたい。

会 長：自転車置き場の件は構造的な問題か。

館 長：効率的に台数を置けるように設計しており、スペースを確保するために段差になっているが、先程ご意見があったように低い所に停めてあることが多い。北側の駐輪場より南側の軒に沢山並んでいる。初めのうちは駐輪場に停めて頂くようお願いしていたがきりがないので、今のところは黙認しているが点字ブロックの上に停めている場合などは注意している。景観上からは良くないかもしれないが、外からは賑やかに見える。学校帰りに必ず寄る場所となっている感じも見受けられる。

会 長：この件については委員の皆様と関係が深いと思う。これまで使ってきた図書館と新しい長浜図書館との利用上のニーズの使い分けなどについて市民の声としても持ち寄ることができるのではないのか。協議会委員として日常心掛けて頂きたい。学生は来ているか。

委 員：学生は結構来ているように思う。学生が見学に来させて頂いたときに、職員から、利用者との交流を増やすために正規の職員も含め本の返却へ行くようにしている、という話を聞き感心していた。利用者との交流の機会として本の返却をしているという点に、利用者とのコミュニケーションを大切にしていることが学生にも伝わったと思う。

会 長：そちらの学生さんはこの図書館をよく利用しているか。

委 員：前の図書館の時よりは来ているように思う。

会 長：協議事項については以上にしたい。

【報告事項】

事務局：初めに図書館川柳大募集の審査結果について報告する。約1か月という短い期間にも関わらず、全館で68人の方から161句の応募を頂いた。その中で図書館協議会委員の方にひとり10作品、館長が10作品、図書館職員が2作品ずつ投票した。一番票の多かったものが「本が呼ぶ 私を讀んでと誘ってる」で図書館協議会特別賞となった。次に多かったのが「全集中30分で本選び」となり、鬼滅の刃の影響が見られる。図書館賞に関しては応募して頂いたそれぞれの図書館でその館らしさや職員を現すものも見られた。小学生から80歳代という幅広い世代に応募頂き、全体的に女性が多かった。今年1年コロナで暗い話題が多い中でたくさんの方から作品が寄せられ、ほっこりするような話題になり良かったと思う。19日11時から長浜図書館で表彰式を行う予定をしている。

事務局：滋賀県図書館協議会交流会の参加報告について、県内の公共図書館の図書館協議会の委員の方の交流会で、例年であれば異なる市町の委員どうして話す機会として開催されるが、今回は感染対策の面から講義という形になり、帝塚山大学の名誉教授から図書館協議会の役割について

お話頂いた。参加頂いた川瀬委員に感想を頂きたい。

委員：11月14日に交流会へ行かせて頂き、中川幾郎先生のお話を拝聴した。自分には何ができるのか、何をしなければならぬ立場なのかを考えさせられた。講義を聴きながら常に自分にできることは何かを考えていた。図書館とは、暇がないお金がない健康でない、家族や知り合いもいない、そういう人にこそ生涯教育をする場であり、図書館に何ができるかということも話されていた。図書館は貸本屋ではない、公民館やまちづくりセンターは安いカルチャーセンターではない、博物館は見世物小屋ではない、という発言を聞いて自分の考えを改めるきっかけになった。東近江市の蒲生のまちづくり計画の進め方についても話をされていたので蒲生や愛荘町の図書館を見に行くのも大事だと思う。講演会が終わってから県立図書館の中も見せて頂き、まず本を守ることが第一で書庫に大きな除湿器が置いてあること、出火時に消火ガスが出る設備があることにも驚いた。滋賀県に何でも置いている図書館があるということは県民として財産であると感じる。県立図書館の書庫で見た、本の重みで棚板が曲がった書架が並んでいるのは豊かな県民の証だと思う。今回の中川先生のお話は、自分に突き付けられている感じがあり、考えさせられた。

会長：藤居委員も参加くださったとのこと。ご感想などあれば。

委員：社会教育委員をさせて頂いており、社会教育ということについても教えて頂いた。生涯学習というのは一生学べることであり、その機会を図書館や公民館がサポートできる体制をとった方がいいと思う。長浜市は公民館がまちづくりセンターになり、専門知識を持った人がおられなくなったので安いカルチャーセンターのような貸館だけの機能になっていかないか心配になった。読み聞かせをしている立場としてコロナ禍ではあるが子供たちにお話を伝えていきたいと思った。小さい頃にかかわる人は大切だと思うし、その後の人生において本との関わりは大切だと思う。コロナに負けずこの取り組みを続けていきたいと思う。

会長：中川さんは長い付き合いで、元々豊中市の行政職員で地域文化の専門として大学の先生をしながら地元の図書館の図書館協議会委員をするなど、行政職員としてのキャリアを持ちながら活動されているというのがあの方の特徴だと思う。あちこちで協議会のあり方、委託の問題についても講演などされている。良い人に良いお話を聞かされたらと思う。

今川柳についてと図書館協議会交流会の報告を聞いたが、これらの件について聞いておきたいことなどはあるか。なければ最後の(3)その他について事務局から。

館長：開館して一年間の振り返りとして発言させていただく。最近特に感じていることとして、本当に沢山の方々に関わりを持って頂いたおかげで図書館が開館したということを実感している。開館に際しては、図書館協議会の皆様にもご協力頂いた事を感謝している。12月以降の統計として1年間をまとめたものを用意した。去年開館直後12月から1月にかけて、長浜図書館の貸出冊数・人数ともに増加はしているが、以前会長からご指摘があったように2月には落ち着き、予測したほどの伸びがなかったと思う。他の館は増加の館も減少の館もあるが微減で収まっていたかと思う。3月ごろから、新型コロナウイルスの影響で行事の中止などがあり少しずつ影響が出始めた。4月13日から5月11日までの約1か月臨時休館を余儀なくされた。その間休館直後や開館直前には混雑を避けるため予約の受け取りのみの臨時窓口を各館で開設し、不安定な開館の対応をしたが、今思うと予約の受け取りを継続しておこなっていた館も全国にはあり、

状況がわからない中でも様々な工夫で閉館することなく乗り切ることができたのではないかと思う。休館中は蔵書点検を各館で実施し、余呉診療所跡地にあった書庫の解体の準備を進めた。学校巡回文庫の準備や臨時の団体貸出しなども学校を通じて行い、休校中の子供へのサービスを模索していた。職員は在宅勤務をしながらも再開館した時のための準備期間として、塩見会長からのご助言もあり、「新型コロナ禍で図書館はどうあるべきか」として職員にレポートを課した。当時の新聞コラムなどを参考資料としたが、臨時休館するのは仕方ない判断であるという意見や、休館したくてしている職員はだれもいないという意見、また、何が具体的にできるかを提案してくれる職員もいた。その中でも前例のないこの状況だからこそ正しい情報や資料提供をし続け、自分で情報を選び、それにより自分の考えを持ち正しい判断ができる市民が育つ場を作ることが図書館の役割であり、職員が知恵を絞り活発な議論ができる集団でありたいとしている職員の意見が印象的だった。その後、秋ごろまでに全体では貸出冊数・人数ともに少しずつ元に戻ってきたが、びわ図書館と浅井図書館の貸出がコロナでの休館以降回復していない。外出控えが継続していることも影響があるかもしれないし、長浜図書館が開館したことによる影響もないとはいえない。正式な利用動向調査の報告がまだなので分析を待っているところ。以前からご指摘頂いている通り、資料費が十分でないことも影響していると思うが、予算に関しては来年度以降も大変厳しい状況である。要求はし続けるが大きな期待は見込めない。その中でも今ある資料の丁寧な提供や魅力ある棚づくりを職員の力で工夫して進めていくことが大切だと感じる。そのために、現在は資料価値の少なくなった本などの選別を進めている。図書館基本計画（第二期）にも関わるが、全体の規模や役割の見直しを行う中で、それぞれの館の棚が魅力あるものになるよう作業を進める。事業全般は音訳ボランティアの養成講座やスキルアップ講座は再開している。対面朗読も断続的に再開している。職員のおはなし会は10月から、ボランティアさんによるおはなし会も12月から再開している。新聞記事等でもお知らせしたが、行政機関との連携で全館展示をおこなうことも進めている。大人のための図書館の達人講座も参加人数は限られたが、受講者が積極的に展示を企画してくださるなど大変実のある講座になったと思う。年度内には、本の修理や装備などその後のボランティア活動に結びつくような行事を考えている。今後も感染予防を徹底しつつ、継続してサービスができるように努力を続ける。

会 長：今の話でもう少し聞いておきたいところなどはあるか。

委 員：子育てサポーター養成講座で平井先生の講座を受講し、参加できて本当に良かったと思う。本だけではなく漫画や映画など、漫画がベースで小説になっている場合など、色んな本を紹介して下さりとても勉強になった。

会 長：どんな人が対象なのか。

館 長：子育てサポーター養成講座は生涯学習文化課主催の講座だが、20人弱が連続講座を受けており、そのうち1コマを平井先生が担当された。

会 長：この一年で感じたことなど何かあれば意見をお願いしたい。

委 員：特に北の余呉、木之本 高月の方の意見は基本的にはほとんど変わっていない。昔の高校の先生から電話で、調べ物をしたいときに全館休館というのは都合が悪いので改善して頂きたいという意見を頂いた。高月の方から、残念ながら長浜図書館までは遠いという意見を聞くことが

多い。個人の感覚ではあるが高月図書館に置いてある新刊書が減ったという意見もある。ネットで調べて取り寄せるやり方もあるが、これまではそこにある本を実際に見て借りる使い方をしてきたので馴染めないという意見もあった。私自身の意見としては長浜市民全てに均等にチャンスがあるわけではないように思うので、次にはそういったところにも配慮して頂きたい。

会 長：図書館協議会としては以上で終了としたい。